

釧路南ロータリークラブ会報

第10回 例会報告 2013.9.13 通算1505回

・点 鐘

佐藤玄史会長

こんばんは、釧路でも、まだ暑い日が続いています。それでも確実に秋の気配がすすんでいます。厚さ寒さも彼岸までといわれます。

・ロタリーソング

「我等の生業」



ソングリーダー 亀岡 孝会員

予報では来週には、空気が入替わるそうです。先週の献血例会の協力ありがとうございました。献血、不適の会員が少し多いのが気になりました。わたくし自身も昨年ダメで病院の要検査です。

さて、9月6日(木)に、被災地の福島へ第7分区から「ペットボトル」を送る(地区補助金利用の夢計画の一環として)この出発式が駅前、外くぼからトラックで、尚分区から3人が現地に向かいました。

それと、10月4日(金)ガバナー公式訪問、10月11日 12日13日(日)地区大会が開催されます。詳しくは 幹事から報告があると思いますのでよろしく御願いたします。

・入会記念祝

亀井 麻也会員 H24. 9. 14 (1年目)



・幹事報告



・会長挨拶



- * 第7・第8各クラブより、9月例会案内と会報を拝受しております。
- * 釧路北ローターアクトより、親睦バレーボール例会の参加案内が来ております、参加者希望者は幹事まで。 以上は回覧しております、ご覧下さい。
- * 9月のロータリーレートは1ドル、100円です。
- * ロータリーの友、英語版の注文が来ております。冊子代は、会員各自支払いです。希望者は幹事ま

で。

- * 地区大会コホスト、パークゴルフ担当の釧路西RCより、10月11日（金）の参加者が少ないとの事で、参加希望者を募っております。参加希望者は9月20日までに幹事まで。
- * 次回9月20日（金）、第3例会終了後、理事・役員会を開催します。 宜しくをお願いします。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
亀井 麻也会員 入会記念祝として

・本日のプログラム

「ポリオ撲滅説明会」夜間例会

担当 国際奉仕委員会

◆長井一広委員長



今晚は、ポリオ撲滅説明会ということなのですが、私自身、“ポリオは小児麻痺”というくらいの知識しかなく、よく理解していなかったのが、今回、このような機会を頂き、あらためて、ポリオについて勉強させていただきました。つきましては、皆様とより深く理解を進めていこうと思います。今回の資料を集めていくと、ロータリーとポリオの関係は、昨年の長倉前国際社会奉仕委員長の発表が最善と思われましたので、資料として皆様のテーブルに配布させていただきました。特に新入会員の方には、ぜひ読んでいただきたいと思います。

私からは、ポリオの簡単な歴史からお話しさせていただきます。→資料①

続きまして、そもそもポリオとはどんな病気で、治療や予防はどのようなものなのか。

また、最後になりますが、ポリオワクチンの基本的な知識はどういうものなのか。どのように接種していけばよいものなのか、ということを紹介していこうと思います。

ポリオとはどういうものなのか。→資料②

最後のポリオワクチンの基礎知識は、厚生労働省の資料から紹介させていただきます。

→資料③

(ポリオの歴史)

1350 BC

エジプトのヒエログラフに最初のポリオの記録が残されている。

1954年

ジョナス・ソーク博士により、不活性ポリオワクチンが初めて発表される。

1961年

アルベルト・サビン博士の経口ポリオワクチンの使用が認可される。

1979年

国際ロータリーとフィリピン政府が共同で、フィリピンの600万人の子供たちにポリオの予防接種を行う5ヵ年活動を開始する。

1985年

ロータリーが、公共保健推進計画の民間部門支援として世界初、しかも最大規模となる「ポリオプラス」を開始し、1億2,000万米ドルの寄付を約束する。

1988年

それから3年以内に、ロータリアンは当初の寄付目標を2倍も上回る2億4,700万米ドルをポリオ撲滅に寄付する。

ロータリーの活動が一部きっかけとなり、世界保健総会が2000年までにポリオを撲滅するという決議を採択し、世界ポリオ撲滅推進計画の発足への道を開く。世界ポリオ撲滅推進計画は、国際ロータリー、

世界保健機関(WHO)、ユニセフ、米国疾病予防センター(CDC)が主導団体となって押し進めている。

1994年

西半球がポリオ無発生地域と宣言される。

1995年

中国とインドにおいて、わずか1週間で1億6,500万人の子供に予防接種が行われた。

1996年

ポリオのない国として宣言された国の数が150カ国となる。ポリオ発生件数は、1988年と比べて85%減少。

2000年

西太平洋地域がポリオ無発生地域と宣言される。

2004年

西アフリカと中央アフリカの23カ国において8,000万人の子供を対象とした一斉全国予防接種日が行われ、アフリカ大陸における一斉予防接種活動として最大の規模となる。

2006年

歴史上、ポリオ常在国の数が最少を記録する(ナイジェリア・インド・パキスタン・アフガニスタン)。

[どんな病気か]

ポリオウイルスが感染して、脊髄(せきずい)の灰白質(かいはいくしつ)という部分をおかすため、数日間かぜをひいたような症状が現われたのち、急に足や腕がまひして動かなくなる病気です。夏から秋にかけて、日本では幼児がかかりやすいのですが、1961年から予防接種が行なわれるようになって以来、発病数が激減し、現在ではまれな病気になりました。しかし、海外旅行から帰った人に、ポリオウイルスの保有者がときどき見つかるので、油断はできません。

[症状]

潜伏期は1~2週間です。発病初期は、熱が出て頭や背中が痛み、汗が出て、だるく、嘔吐(おうと)や下痢(げり)をすることがあるなど、夏かぜに似た症状になります。このような症状が1~4日続いて熱が下がるころ、足や腕に力が入らなくなって麻痺してき

ます。重症の場合は、胸の筋肉や横隔膜(おうかくまく)まで麻痺し、ときには呼吸中枢(こきゅうちゅうすう)のある延髄(えんずい)までウイルスにおかされ、呼吸ができなくなって、死亡することもあります。

しかし、こうなるのはごく少数で、たいていは、かぜのような症状だけで、まひはおこらずに治ります。さらに、なんの症状も現われず、本人も知らないうちに免疫ができて治ってしまう不顕性感染(ふけんせいかんせん)が95%を占めています。

[治療]

感染症予防法で2類感染症に指定されています。

病原ウイルスに効く薬はないので、寝て安静を保つことがたいせつです。

背骨が痛ければ、温湿布(おんしつぷ)や鎮痛薬(ちんつうやく)を用い、呼吸困難が生じたら、レスピレーター(人工呼吸器)を用います。まひが生じたら、マッサージ、電気療法、運動療法などのリハビリテーションで回復をはかります。

[予防]

おもな感染源は、糞便(ふんべん)中にいるウイルスですが、のどにいるウイルスも感染源になります。したがって、病人は入院して治療し、糞便、鼻やのどの分泌物(ぶんびつぷつ)で汚染されたものは消毒します。

予防にもっとも効果があるのは予防接種(予防接種とはの「予防接種の種類」)です。

ポリオとポリオワクチンの基礎知識

ポリオの予防には、ポリオワクチンの接種が必要です。

単独の不活化ポリオワクチンは、2012(平成24)年9月1日に導入されました。
4種混合ワクチンは、2012(平成24)年11月1日に導入されました。



ポリオと ポリオワクチンの 基礎知識

ポリオとポリオワクチンについて

問 1. ポリオってどんな病気ですか？

問 2. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

問 3. 生ポリオワクチンと不活化ワクチンはどう違うのですか？

問 4. 不活化ポリオワクチンはいつから接種可能となりますか？

今年9月以降の不活化ポリオワクチンの接種について

問 5. 不活化ポリオワクチンの接種回数・年齢・方法はどのようになりますか？

問 6. 生ポリオワクチンを受けたことのある場合、不活化ポリオワクチンを受けられますか？受ける必要がありますか？

問 7. すでに海外等で不活化ポリオワクチンを受けている場合、2012（平成24）年9月以降に不活化ポリオワクチンの定期接種を受けられますか？

問 8. 不活化ポリオワクチンを、他のワクチンと同時に接種できますか？他のワクチンとの接種間隔は？

使用する不活化ポリオワクチンについて

問 9. 単独の不活化ポリオワクチンと4種混合ワクチン、どちらを接種するのですか？

問 10. 単独の不活化ポリオワクチンを1回受けた後、その後に4種混合ワクチンを受けられなくなりますか？

問 11. 不活化ポリオワクチンの量は足りませんか？

ポリオとポリオワクチンについて

問 1. ポリオってどんな病気ですか？

・ポリオは、人から人へ感染します。

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介して

さらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。

・ポリオウイルスに感染すると手や足に麻痺があらわれることがあります。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあられずに、知らない間に免疫ができます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在、残念ながら特效薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

問 2. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

・予防接種によってポリオの大流行を防ぐことができました。

日本では、1960（昭和35）年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により、流行はおさまりました。1980（昭和55）年の1例を最後に、現在まで、野生の（ワクチンによらない）ポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。

・今でも、海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

海外では、依然としてポリオが流行している地域があります。パキスタンやアフガニスタンなどの南アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国です。また、これらの国の患者からの感染により、タジキスタンや中国などでも発生したという報告があります。ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国（あるいは入国）してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便

にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。

・ポリオに対する免疫をもつ人の割合が減ると、流行する危険があります。

仮に、ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、現在では、ほとんどの人が免疫を持っているので、大きな流行になることはないと考えられます。シンガポール、オーストラリアなど、予防接種の接種率が高い国々では、ポリオの流行地からポリオ患者が入国しても、国内でウイルスが広がらなかったことが報告されています。しかし、予防接種を受けない人が増え、免疫を持たない人が増えると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫を持たない人から持たない人へと感染し、ポリオの流行が起こる可能性が高まります。

問 3. 生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンはどう違うのですか？

・生ポリオワクチンには、病原性を弱めたウイルスが入っています。

「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。ポリオに感染したときとほぼ同様の仕組みで強い免疫が出来ます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出る場合があります。その他、麻しん（はしか）や風しん（三日ばしか）のワクチン、結核のBCGが生ワクチンです。

・不活化ポリオワクチンは、不活化した（殺した）ウイルスからつくられています。

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し（＝殺し）、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません（ただし、発熱など、不活化ワクチンでも副反応が生じることがありま

す）。その他、百日せきや日本脳炎のワクチンが不活化ワクチンです。

問 4. 不活化ポリオワクチンはいつから機種可能となりますか？

・単独の不活化ポリオワクチンの定期機種は、2012(平成24)年の3月1日から開始されました。2012(平成24)年9月1日から生ポリオワクチンの定期予防接種は中止され、単独の不活化ポリオワクチンの定期接種が導入されました。

・ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオワクチン(DPT-IPV)の4種混合ワクチンの定期接種は、2012(平成24)年11月1日から開始されました。今年9月以降の不活化ポリオワクチンの接種について

問 5. 不活化ポリオワクチンの接種回数・年齢・方法はどのようになりますか？

・不活化ポリオワクチンは、初回接種3回、追加接種1回、合計4回の接種が必要です。

不活化ポリオワクチンの標準的な接種年齢・回数、間隔は、次のとおりです。

・初回接種(3回):生後3か月から12か月に3回(20日から56日までの間隔をおく)

・追加接種(1回):初回接種から12か月から18か月後(最低6か月後)に1回

なお、この期間を過ぎた場合でも、生後90か月(7歳半)に至るまでの間であれば、接種ができます。過去に生ポリオワクチンを受けそびれた方も、対象年齢内であれば、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けていただくことが可能ですので、接種されることをおすすめします。

・単独の不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日以上の間隔をおけば機種可能であり、接種間隔の上限はありません。

・単独の不活化ポリオワクチンの追加接種は、2012(平成24)年10月23日より開始されました。

・不活化ポリオワクチンは、注射による接種です。

多くの市町村で通年接種可能になりました。不活化ポリオワクチンは、注射による接種です。多くの市町村では、医療機関での個別接種となり、通年接種が可能になりました。(生ポリオワクチンは、経口の(飲む)ワクチンで、多くの市町村では春・秋の接種シーズンに集団接種が行われてきました。)

問6. 生ポリオワクチンを受けたことがある場合、不活化ポリオワクチンを受けられますか?受ける必要がありますか?

・不活化ポリオワクチン導入前に1回目の生ポリオワクチンを接種した方は、2回目以降は不活化ポリオワクチンを受けることになりました。

2012(平成24)年8月31日時点で、生ポリオワクチンを1回接種した方は、9月1日以降に、不活化ポリオワクチンを3回接種することになりました。

・すでに不活化ポリオワクチン1~2回と生ポリオワクチン1回を受けている場合でも(順番問わず)、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けられます。生ポリオワクチン1回と不活化ポリオワクチンを合計して4回となるよう~残りの不活化ポリオワクチン1~2回を定期接種として受けることが可能です。

・生ポリオワクチンをすでに2回接種された方は、不活化ポリオワクチンの追加接種は不要です。

問7. すでに海外等で不活化ポリオワクチンを受けている場合、2012(平成24)年9月以降に不活化ポリオワクチンの定期接種を受けられますか?

・すでに不活化ポリオワクチンを1回~3回受けている場合でも、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けることが出来ます。

2012(平成24)年9月1日以前に、海外等で不活化ポリオワクチンを1回~3回接種された方は、医師の診断と保護者の同意に基づき、定期の不活化ポリオワクチン3回の初回接種のうち、既接種の回数の接種を終えたものとして、残りの初回接種の回数と追加接種1回の不活化ポリオワクチンを定期接種として受けることが可能です。

・すでに不活化ポリオワクチンを4回受けている場

合、不活化ポリオワクチンの接種は不要です。

問8. 不活化ポリオワクチンを、他のワクチンと同時に接種できますか?他のワクチンとの接種間隔は?

・医師が特に必要と認めた場合は同時接種可能です。

・6日以上あければ他のワクチン接種が可能です。

不活化ポリオワクチンを接種した日から、別の種類の予防接種を行うまでの間隔は、6日以上おく必要があります。また、不活化ポリオワクチンが接種できるのは、他の不活化ワクチン(三種混合ワクチン(DPT)、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンなど)を接種してから6日以上、他の生ワクチン(BCG ワクチンなど)を接種してから27日以上の間隔をおいてからです。

使用する不活化ポリオワクチンについて

問9. 単独の不活化ポリオワクチンと4種混合ワクチン、どちらを接種するのですか?

・以下のいずれかのワクチンを既に接種している方:

生ポリオワクチン1回

単独の不活化ポリオワクチン1回以上

3種混合ワクチン1回以上

原則として単独の不活化ポリオワクチン+3種混合ワクチンを接種します。

・ポリオワクチンと3種混合ワクチンが未接種の方:
ポリオワクチンと3種混合ワクチンが未接種の方は、原則として4種混合ワクチンを接種しますが、単独の不活化ポリオワクチンと3種混合ワクチンを選択することも可能です。

・原則として最初に使用した不活化ポリオワクチン(単独又は4種混合)を最後まで使用してください。国内臨床研究により、単独の不活化ポリオワクチンと4種混合ワクチンの併用で、十分な効果があることが確認されており、併用することは可能です。

しかしながら、ワクチン需要供給量のバランスが崩れる恐れがあるため、単独の不活化ポリオワクチンを使用している方は、最後まで単独の不活化ポリオ

ワクチンを接種していただくようお願いします。

使用されるワクチンがどちらかに偏ったり、医療機関において必要量以上のワクチンを購入すること等があった場合、地域によっては供給量が不足することが懸念されます。仮に4種混合ワクチンの供給が不足した場合には、特に百日せきの接種を遅らせることはおすすりできないため、4種混合ワクチンの入荷を待つことはせず、生後3ヶ月を過ぎたらできるだけ早く3種混合ワクチンと単独の不活化ポリオワクチンを接種することが望ましいです。

また、4種混合ワクチンで開始したものの、ワクチンの入荷状況により4種混合ワクチンでの接種を完了できない場合は、3種混合ワクチンと単独の不活化ポリオワクチンを接種していただくようお願いします。

問10. 単独の不活化ポリオワクチンを1回受けると、その後4種混合ワクチンを受けられなくなりますか？

・原則として最初に使用した不活化ポリオワクチン(単独又は4種混合)を最後まで使用してください。国内臨床研究によって併用可能となりましたが、ワクチン需要供給量のバランスが崩れる恐れがあるため、単独の不活化ポリオワクチンを使用している方は、最後まで単独の不活化ポリオワクチンを接種していただくようお願いします。

・単独と4種混合を併用する場合、接種間隔にご注意ください。4種混合ワクチンの初回接種間隔は20日から56日までとなっており、3種混合ワクチンと4種混合ワクチンの初回接種間隔も20日から56日までとなっているため、規定される初回接種間隔内に接種していただくようご注意ください。なお、単独の不活化ポリオワクチンは、初回接種(3回)として20日以上の間隔をおけば接種可能であり、接種間隔の上限はありません。

・3種混合ワクチンと4種混合ワクチンを併用する場合においては、初回3回・追加1回の合計4回を超えて接種することはできません。

問11. 不活化ポリオワクチンの量は足りるますか？

・不活化ポリオワクチンについては、必要な量が供給される予定です。

単独の不活化ポリオワクチンは、平成24年度内に接種対象者全員の接種を完了できる十分な供給量が確保される見込みです。接種希望者が集中した場合、一時的に接種が受けにくくなる状況が生じることもありえますが、平成24年度中には、十分な量のワクチンが順次製造・出荷され、接種を完了していただける見込みです。4種混合ワクチンについては、平成24年8月以降生まれの方が年度内に必要回数接種を完了していただける十分な量が確保される見込みです。しかしながら、使用されるワクチンがどちらかに偏ったり、医療機関において必要量以上のワクチンを購入すること等があった場合、地域によっては供給量が不足することも懸念されます。仮に4種混合ワクチンの供給が不足した場合には、特に百日せきの接種を通らせることはおすすりできないため、4種混合ワクチンの入荷を待つことはせず、生後3ヶ月を過ぎたらできるだけ早く3種混合ワクチンと単独の不活化ポリオワクチンを接種することが望ましいです。

また、4種混合ワクチンで開始したものの、ワクチンの入荷状況により4種混合ワクチンでの接種を完了できない場合は、3種混合ワクチンと単独の不活化ポリオワクチンを接種していただくようお願いします。



・次回のプログラム

9月20日(金)

「秋の清掃例会」12:30～

会場 柳町公園

担当：環境保全・新世代委員会

・点 鐘 佐藤玄史会長

今週の会報担当：森江洋之会員